

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語、数学ともに、全国、滋賀県の平均正答率を下回る結果でした。「知識・技能」に関する問題のほとんどで、平均正答率が全国、滋賀県の平均正答率よりもかなり低い結果でした。一方で、「思考・判断・表現」に関する問題では、全国、滋賀県と比較して平均正答率が高い問題もありました。また、すべての問題で、無解答率が全国、滋賀県の割合よりも低く、粘り強く問題に取り組む姿勢がみられました。

生徒質問紙から、「毎朝朝食を食べている」生徒や、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒の割合が全国平均より大きく下回っていました。授業や家庭における学習でのICT機器の活用の使用頻度は、全国平均を大きく上回っていました。

《強み》

☆国語では、「思考・判断・表現」を問う問題は、ほとんどの問題で全国並みの平均正答率でした。

☆数学では、「関数」の領域の平均正答率は、全国並みでした。

☆国語、数学とも、無解答率が低く、最後まで解答しようとする生徒が多く見られました。

☆ICT機器の活用については、90%の生徒が週の半分以上の授業で活用していると回答しており、学校の授業時間以外にICT機器を活用している時間も、全国平均に比べて高いことが分かりました。授業でICT機器を積極的に活用していることが反映されています。

《弱み》

★国語では、書き問題や文法問題、行書体についての問題で、正答率が全国平均・県平均をかなり下回りました。

★数学では、「数と式」や「データの活用」の問題で正答率が全国平均・県平均をかなり下回りました。

★「朝食を毎日食べている」生徒の割合が全国平均を大きく下回りました。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝起きている」生徒の割合も全国平均より下回っていました。

★自己の認識や他人との関わりに対する回答から、自己存在感や自己有用感の低さが見てとれました。中でも、「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、「当てはまる」と回答した生徒は全体の4分の1程度にとどまりました。

【指導の充実に向けて】

＊国語では、言語活動には力を入れており、資料を用いて自分の考えを表現したり、相手の考えの根拠を理解して反駁したりする力がついていると考えています。一方で、記述式の問題については適切な表現方法を身に付ける必要があり、そのための授業づくりを行います。また、漢字やことわざなど、知識・技能の問題は繰り返し復習する課題を出すなど、学習内容が定着するための改善を行います。

＊数学では、数と式の領域で反復学習を増やし、数学の基礎となる力を強化します。考え方や解き方を交流したり、論理的に説明したりする場面のある授業を継続します。日常生活に結び付く題材を取り上げることで、学習意欲を高めます。

＊本校の【強み】であるICT機器を活用しながら、生徒たちが自分たちで課題解決や達成感を味わえるような授業改善により一層取り組みます。

＊生徒自身が「自分のよいところ」を認識できるように、教師の関わりや声かけを積極的に進めていきます。